

令和6年度 第2回公民館運営審議会 議事概要

日 時：令和6年（2024年）12月18日（水） 19時00分～20時30分

会 場：豊中市立中央公民館 1階 集会場

出席者：大里 ルミ子、大濱 浩子、奥村 旅人、十河 秀敏、野村 恭代、福本 雅一、
松山 鮎子、松山 繁樹、渡邊 浩

欠席者：秋山 京子

事務局：本田 光直（中央公民館長）、山岸 明子（螢池公民館長）、橋本 慶（庄内公民館長）、江川 勉（千里公民館長）、前田 真吾（中央公民館副館長）、守屋 浩一（中央公民館）北村 宣雄（教育委員会次長兼社会教育課長）

傍聴者：なし

- 案 件
1. 令和6年度公民館講座等の実施報告について
 2. 令和6年度公民分館講座等の実施報告について
 3. 豊中市教育委員会の権限の属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書（令和5年度実施分）について
 4. その他

【資 料】

- 資料1 令和6年度公民館講座集計表(4月～9月実施)
- 資料1-1 講座集計表への入力（考え方）
- 資料2 令和6年度公民館まつり実施状況
- 資料3 豊中市教育委員会の権限の属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書（令和5年度実施分）抜粋
- 資料4 令和6年度公民分館講座 実施状況
- 資料5 令和6年度公民分館 体育祭・文化祭・その他行事 実施状況

1. 開会

2. 案件

1. 令和6年度公民館講座等の実施報告について
＜事務局より資料1-1、資料1、資料2に基づき説明＞

●3ページの1番下の庄内公民館の「ハーブの育て方～キッチンで使えるハーブ栽培」で、延べ人数が「0」となっているのに参加者満足度が「5」になっているのはどういうことか。

それに関わって、「趣旨・内容」について、趣旨は分かるが内容は書きようがないのではないのか。

■人数は抜けている。確認してきちんとしたデータを報告する。

◇それに関連して、5 ページの庄内公民館の 1 番上が延べ参加者ゼロ、7 ページの蛸池公民館の「クラシックギターアンサンブル」が参加者ゼロで参加者満足度が空白になっている。参加者がゼロの場合は、参加者満足度は空白にしているのか？記入方法の統一を検討いただきたい。

●3 ページの蛸池公民館の「子育て世代の健康測定会」は人気があったようだが、初めて講座に参加した人の欄が空白だが？ゼロなのか？

それと 5 ページの千里公民館の「なぞとき」は面白い企画だと思ったが、講師が 3 団体あって、謝礼金が 5 万円となっているが、3 団体合わせて 5 万円なのか。内訳が気になるので、可能なら 1 団体ずつ分けて表記してもらいたい。

■3 団体あわせて 5 万円である。

◇初めて参加の人が何人か、今わからないか？

■今わからないので、確認してまた後日報告する。

●謝礼金について、講師は一般企業や同好会、市の関係など色々いると思うが、講師料の基準が解らない。基準があると解りやすいのだが、担当者の差配か？突っ込まれる可能性がある。また、ボランティアだから払わなくて良いというところはどうしているのか？払わなくて良いのか？そのあたりをはっきりしたほうが後々トラブルにならないと思うので、検討いただきたい。

それから、大学連携について、大阪で近隣に大学が多いので、増やしていつてもらえたらすごく活性化すると思う。大学・高校に対してもっと広報して欲しい。蛸池公民館の「子育て世代の健康測定会」は看護専門学校との連携とのことだが、大学等連携欄に○が入ってもよいのでは。

また、人材活用事業登録講師だが、以前名簿をもらったが、講師登録している知り合いがいて講座をお願いしたことがあるのだが、地域の公民分館長が講師登録していることを知らなかった。公民分館長には名簿がいつているかもしれないが、文化部部长にはいつていない可能性もあるのか。どこまで浸透しているか疑問である。

■謝礼金の基準だが、4 館共通で、例えば大学教授はいくらであるとかという一定の基準はある。ボランティアについて、講師として呼んでいるという事ではなく、一緒に事業を展開するという共催という考えで、謝礼金が必要ないということで関わっている場合、支払っていないこともある。

●1 ページ目の山野草同好会との事業が 3 つあるが、謝礼金ゼロと、1 万円と違うのはなぜか。この表ではその違いが分からない。基準があるのか。

■謝礼金ゼロは公民館の部屋で開催したものであり、1 万円は、島熊山へ行ったもので、下見であったり実費がかかったものである。

■分かりにくいものは工夫していきたい。看護学校については、厳密にいうと大学ではないという事で、入れていなかったということである。

■看護学校は、「大学等」に含まれないと解釈したので○をしなかった。

■人材活用登録だが、各公民館に登録してもらっており、直接それがすべて分館へ連絡がいているとは限らないが、分館講座の時などには情報提供して活用してもらっている。

●市全体で共有しているのではなく、公民館で共有しているのか。

■そうである。

●公民館で行う講座の謝礼金の上限はないのか。公民分館で講座をするときの謝礼金は 8 千円の上限があるが、千里公民館の講座は 1 回 5 万円支払っているが、2 回だと 10 万になるが、上限はないのか。

■講師 1 人に対して上限額は決まっている。これは大人数で対応しているから金額は高くなる。

●基準はいくらか。

■今ちょっとわからない。

●やっている内容が分館講座と変わらず、参加人数もさして変わらないが、金額が全然違うので、税金なので、ちょっと考えてもらいたい。

それから、中央公民館の「ゆかたを自分で着てみよう」は人権啓発の範疇なのか、どういう分け方をしているのか。外国人向けなのか。

■日本人向けの講座で、文化を学ぶためのものである。

●分館講座でも、「ゆかたの着付けや風呂敷の包み方」講座は人権学習講座にして良いのか？

■ケースバイケースである。今夏の講座は十分精査したうえで、人権啓発講座としている

●日本の伝統のゆかたを日本人に知ってもらうことの何が人権啓発なのか。ちゃんと説明できないと思うが。職務怠慢だと思う。この辺りはもっとしっかりと考えてほしい。

◇この件については、この場ですぐ回答が出ないと思うので、もう少し内容については変更も含めて検討してもらいたい。人権という判断をされたのなら私たちにも分かるように説明の趣旨内容に加えてもらうか、そうでないなら種別の変更も検討してもらいたい。

●3 ページの蛸池公民館の「赤ちゃんのハイハイレース」で、SDG s の取り組みとしてベビー服の譲渡会を開催とあるが、蛸池公民館では常時ベビー服を置いていて、先日滋賀の竜王公民館が視察に来た時に見てもらって、大変いい取り組みだと仰っていた。もっと広げていってもらいたい。

2. 令和6年度公民館講座等の実施報告について

＜事務局より資料4、資料5に基づき説明＞

●公民館活動として、中央公民館まつりに男声合唱のサークルとして参加した。また、中豊島公民分館の「なかてフェス」という文化祭に合唱団としてご招待いただき、出演した。居住地の上野公民分館の文化祭や地域の歩こう会などにも参加した。

それから、審議会の野村委員長や本田中央公民館長と、野畑・克明公民分館の文化祭、庄内ショコラを視察させていただいたが、上野公民分館と同じようにそれぞれ地域で熱心に運営されている。参加者も楽しくされていた。ショコラは初めて行ったが大変良い施設だと思う。いろいろな施設が集まってまつりをするというのは運営が大変だと思うが、素晴らしいと感じた。

公民館に所属するサークルには発表の機会を待っているサークルもあるので、サークル紹介の冊子は作っていただいているが、サークルを紹介していただけるような仕組みを作っ

てもらえたら、サークル活動をしていく際にもよいのではないかと思います。

私がやっている合唱のサークルは、12年前、中央公民館講座ということで始まり、3年間で20人くらい集まってその後、講座は終了し、自主的な活動に移行していくことになった。次に繋げていくような講座・取り組みや、場所的なサポートも考えていてもらいたい。

千里公民館は「ぶらり千里の会」の高齢化が進んでいるとのことだが、次の担い手を作っていてもらいたい。

◇私も11月17日に、視察という事で、公民分館の文化祭と庄内ショコラに行かせてもらった。初めて参加したが、小さな子どもから高齢の大人までたくさんの人が一緒に参加していて驚いた。今大学の近くでもどのようにして地域づくりや多世代との交流をしていくか検討しているのだが、なかなか難しいので、このように文化祭などを介して地域で自然に交流するという場面を見せてもらって、たいへん地域づくりの参考になった。

3. 豊中市教育委員会の権限の属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書 (令和5年度実施分) について

＜事務局より資料3に基づき説明＞

●エビデンス・ベスト・ポリシー・メイキングを考えると数字は大事だと思う。

一方で、福本委員の仰っていた「赤ちゃんのハイハイレース」やその下の「育休を取ったパパにいろいろ聞いて交流しよう」などの講座、個人的な印象はCクラスという印象は受けなくて、先駆的な取り組みで、辛いところに手が届く実践もあると感じた。一方で、参加するこどもは限られるという印象もあって、目の前の増加率と辛い所に手が届くというのはある程度は両立しえないと思うが、しかしこのような面白い取り組みも評価しても良いのではと思うので、パーセントだけに拘らないことも大事なのではないかと、社会教育的な観点からは感じる。

●他施設との連携について、子育て施設と連携していくのはすごくいいことだと思う。評価の基準は確かに数値で決まるのだが、日頃、子育て相談窓口に行けなかった人が、お話し会などのちょっと緩い繋がりの中で悩んでいることが表面化し、解決につながるきっかけになったりする。そういう日々の緩い繋がり为社会教育的な場だと作りやすいのではないかと。連携の意味とはそういうところではないのか。そういうところが評価に含まれていても良いのではないのか、と思ったりもする。評価はどうしても数値で表されるが、そういった所も評価に含めていければよいのではないかと。

■それまで庄内公民館はショコラになるまで子育て支援の取り組み講座もしていた。一方で子育て施設が入ってきたことでその環境の中で連携が出来やすくなった。反面、それぞれの施設において個別でやっていたものがお互い対象がかぶってしまっていて増やしていくことが難しくなってきた。それで数が上がりにくくなっていた。

多種多様な方が入ってくるようになった。すぐ目の前にあってアクセスしやすくなったところは評価していけるところであると思う。教育委員会側からもそういった部分を表現していけば伝わるのではないかな。

●この話は、ショコラの話ではなくて、市全体の話ではないのか。

■担当課が割り振られている中で、この項目は公民館と図書館が割り振られている。就学前の教育は教育委員会から離れてしまっていて子育て部局に行ったので組織的に見えにくくなっている。

●地域での子育て環境づくりはショコラが出来たからでどうこうではないのでは。今ショコラの話をしたのだがショコラは 1/4 のものではないのか。ほかの館はどうしているのか？

■他の館でもやっている。

●学力学習状況調査アンケートのところで、小学生は 43.5%から 45.2%、中学生は 28.7%から 27.6%とあまり変わっていない。あと 3 館はどうしていたのか。庄内も、一緒になったのにこの状況ならあまり変わっていないのではない^かという事か。

この指針がこれで良いのか、ということもあるが、ショコラばかり書いているが、他のところはどうしているのか。根本的に豊中市としては子育ての環境づくりをどうしていくのか。ショコラと同じように一緒にしていくという事ならそれはそれで良いが、どうなのか。

■庄内コラボだが、教育では公民館・図書館と書かれていて、一番意識して他のところと地域連携している。公民館の事業の数で行くとこのような数字になっているが、ここは 4 公民館まとめた話で主担は中央公民館だが、内容がショコラの事ばかり書かれていて、一緒になったメリットというのはあると感じている。公運審で言う事ではないが、この指標には納得していない。

●少路地区の校区福祉で子育てサロンをしているが、毎月 1 回あり、30 組くらい親子が来る、新規が 1/3、2/3 は毎月来ている。月末にインスタで地域広報誌を拾って載せている。

庄内にはほっぺの南分室があり充実している。豊中市内でも地域差がある。蛍池でも活発に新しいことをやっている。

中央公民館は近くにほっぺがあるので、それはそれで良いと思う。千里は陸の孤島になってお母さんたちが利用するチャンスが少ない。月1回でも定期的にあるというのが行きやすくてよい。

予約するのも、子どもが風邪ひいたりしてキャンセルが面倒くさい。子育てサロンは予約不要でハードルが下がっている。ほっぺは千里で月1回やっている。もっと千里公民館でもやってもらいたい。

中央もロビーに遊具おいている。私が高校生の頃、自習が図書館で一時出来なくなってしまったことがある。自習室があることを知らないお母さんや学生に向けて発信してもらいたい。

●私としては、庄内コラボが先駆的に連携を進めているということで、どう波及させていくかも含めてここに突出して載せているという理解をしている。コラボでなくても地域で色々な形があると思う。連携の強さをいかに発信していくか。

社会教育に関わっては、目が出るまで時間がかかる。3年から5年、長ければ10年かかることもある。評価は単年度になってしまって、やっていくのは大変だが、頑張っしてほしい。地道にやってほしい。

●千里もコラボが先に出来ているが、どこにも話が出てこないのは何故か？

■千里でも親子向けのイベントはやっているが出てこないのは、公民館の部分で載っている。ショコラは市長部局なので、ここにショコラの事が出ているのは逆に疑問である。

千里文化センターでは、イベントもしている。コラボカフェなどもやっていて、こども服のリサイクルもやっている。みなさんにアピールが不足していることを実感した。

●新しい試みは単年度評価に耐えない。耐えるべきだとも思わないのだが。既存の指標が変わらないならそれに適用する必要がある。一方で適切な評価を求めることも大事である。この基準はどこから出てきているのか。どのように提示されたのか。

■他の指標を出してもらえないか打診したが断られた。計画時にそれぞれの分野ごとに設定したものがあって、それを変えることは出来ないといわれた。

●計画を作ったのはどこか？

■教育委員会全体で作ったものである。当初の計画策定時の指標は根本的には変えようが

ないと言われた。評価の考え方の上に数値が乗ってくるということで、どのような見せ方をするかが課題である。

4. その他

＜事務局より、次回の審議会は令和7年3月に開催予定であることの報告があった。＞

以上